

B' 210mm

ワークショップ
2022/YBfab



『海をつくる』

但馬の山々を背景に広がる広場を眺めながら、ふと海の光景が目の奥に浮かびました。そして山の村で耳にした話を思い出しました。…その辺りは一面の海で、船のいた神様が、どこかへいってしまった船を探すという大屋町の「まいそう祭り」の伝説です。海のイメージが脳になっていました。
風が吹き抜ける広場でワークショップをして、海の空想の生き物を作り、芝生広場を海に見立てて遊び、体験や記憶を重ねることで「海」という空想を映像や造形物で広げていきます。



新井厚子 / Atsuko Arai

京都府福知山市出身、在住。1994年からスペインのバルセロナを中心に美術作家活動を行い2015年地元に拠点を移す。地域の文化、習慣や旅から発想を得て制作し、また参加型アートプロジェクトを各地で展開。
スペインのタラゴナ近代美術館、パスク写真美術館等での個展をはじめ欧米で多数展覧会開催。国内では越後妻有大地の芸術祭、国際芸術センター青森、さいたまアートトリエンナーレ等で制作発表。野村国際文化財団、カタルーニャ文化省等で芸術助成を受賞。



『猪闇の森の中で』 2021年

絵画でも立体でも、出来るだけ、私唯一の作品作り。
一見、何か分からぬ作品を制作する事を、目指しています。
二度見て頂ける作品が目標です。



『ロック』

島田 勝 / Masaru Shimada

1959年生。豊岡市にて工務店経営2015年より絵画、2016年より立体造形を始める。さきかけは家族の活動に刺激を受けて。
絵画では、2015年豊岡市展に初出展で特選を獲り、造形でも入賞をいくつも獲っている。最近では、絵画は三木市展で教育委員会賞。丹波アートコンペで奨励賞。造形は、姫路市展で教育委員会賞、丹波アートコンペで観光協会賞を受賞。グループ展など多数開催。豊岡、但馬を軸に幅広く活動している。

森のまちからはじまる

2022.11.5-11.20

YBfab

野外アート展

A' 210mm

「Memory」

市民から提供してもらった昔の写真をもとに
絵を描きました。大切にしてきた思いを共有し、懐かしんでもらえる場をつくりたいと思
います。



『Flower』 2012年



宿南 泉 / Izumi Shukunami

1960年、養父市八鹿町生まれ在住。女子美術大学卒業。1985年より
阪神間に居住。堀尾貞治氏らアーティストと交流したアトリエ凹
凸で銅版画制作したり。1997年帰郷。阪神大震災で自宅アパートが
全壊した経験から再生紙や木才で「家」を作製。越後妻有トリエン
ナーレ、神戸ビエンナーレ、銅版画で豊岡市展受賞、兵庫県展、日
本版画協会展入選再生紙による「家」で姫路市長・豊岡市展市長賞、
兵庫県展受賞。



『丸山、ハロ～！』 2021/ 神戸

ワークショップ 2022/YBfab

『ハロ～、YB！』

単なことなのです。見ただけで、少しの驚きと気
持ちの高ぶりが生まれるような、そんな光景を作り
たいと思います。養父市の皆さんにも手伝って作っ
ていただいた色とりどりの軍手が、芝生広場で風に
揺れてあいさつします。「こんなちは～！」と。

滑川 みざ / Miza Namekawa

神戸生まれ、神戸在住。1982年大阪大学人間科学部卒業。同年大阪
市立美術研究所に入所。その後、1995年まで銅版画中心に制作・発表。
1995年～2004年渡米、制作発表。渡米後、プロジェクト的作品などを
手掛け。帰国後はインスタレーションを中心に制作。
Williamson Art & Historical Center (2001/New York, USA)、生野
ルートダルシャン芸術祭 (2016・2020/朝来)、瀬戸内国際芸術祭2022
(2022/小豆島)、デンマークでのアートプロジェクト (2013・2017-
2018/デンマーク内の村6か所)、他。
<https://www.namekawamisa.com/>



青鶴書院で地区の人から
池田草庵先生のお話を
聴きました



文化芸術観光専門職大学
の学生と共に八鹿町三谷地区
から竹を運び出しました



宿南ふれあいクラブ
でのワークショップ

市民の皆さんに

ご協力いただいています。

この野外展では、アートを一方的に鑑賞するだけでなく、アーティストと市民と一緒につくりあげる展覧会を目指しています。宿南地区自治協議会は、杉山至さん、滑川みざさんの作品制作に協力していただいている